グリーン四国

四国森林管理局

四国山の日

高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ088－821－2052
ＦＡＸ088－821－4834
ホームページアドレスhttp://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1116　2013年３月号

平成24年度

国有林モニター会議を開催

国有林モニターの皆様から、国有林に期待すること等について、意見を頂きました。

【詳細２頁】

平成24年度　国有林モニター会議

平成二四年度 国有林モニター会議を開催

《企画調整室》

モニター会議の様子

二月二二日、四国森林管理局において、平成二四年度国有林モニター会議を開催しました。

国有林モニターの取組は、国有林野事業の運営等についてご理解をいただき、開かれた「国民の森林」に相応しい管理経営を行うために、四国在住の二六名の方に、幅広い意見や要望等について依頼しているものです。

会議では、出席された一一名の国有林モニターの皆様から、国有林に期待すること等について、意見を頂きました。

この会議で頂きました国有林モニターの皆様の意見については、四国森林管理局の管理経営業務に活かして参ります。

（主な意見等は次のとおり。）

○勉強会で実際に自分の目で現地を確かめることができて非常に良かった。

○民有林の大部分を占める山間部の過疎化が進んでいる。山村の振興は平野部に住む人々にも影響がある。日本全国の山間部の森林管理、とりわけ国有林の役割が高まっていくと感じた。

○官公庁や列車等いろんな場所に積極的に木を使ってほしい。また、働きかけを行ってほしい。

○国有林だけでなく、民有林も共同で管理していく必要があるのではないか。

○准フォレスター研修にもっと力を入れてほしい。

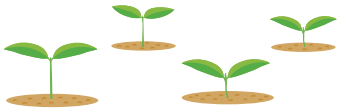
○山が好きでも森林のことを知らない人が多いと思うのでPRしてほしい。

○若者が林業に従事し定着できる対策が必要だと感じた。山村地域においては、先々を睨んだ町づくり計画と林業振興を一緒にやっていくことが必要ではないか。

○森林環境税を使って、地方自治体と国が共同して補助したらよいのではないか。

○今、木材が安い。補助金をいかに民有林に使ってもらうかが重要。

○豪雨等で山地災害が発生しやすくなってきていると感じる。治山・治水の面で森林の役割が大きいのではないか。



各地のたより

間伐体験
〈ふれあいセンター〉

一二月一九日、高知県四万十町立昭和中学校全校生徒一八名が四万十森林管理署管内の伊豆ヶ谷山国有林で間伐体験を行いました。

この行事は、地域の主要な産業のひとつである林業を体験をすることによって、自分たちの住む地域の理解や自然環境保全への意識を高めていくことを目的に毎年恒例行事として実施されています。

鋸を挽く

初めに、ふれあいセンター所長が、ニホンジカによる食害で植生が変化している様子や間伐の必要性、安全な木の伐倒方法などを説明しました。

その後、五班に分かれた生徒を四万十森林管理署職員とともに指導にあたり、間伐作業を開始しました。

まずは、昨年も経験している上級生がお手本となる伐倒を見せれば、負けじと先生も挑戦しました。受け口作りで斜めに切り込むのは予想以上に苦労をしていましたが、追い口を切るときには他の生徒の応援を力に伐倒することが出来ました。毎年行っていることもあって、上級生の中には数分で伐倒する慣れた生徒もおり、約一時間の作業で数十本が伐倒された林内は見違えるように明るくなりました。

間伐作業を行うことで、森林整備の大切さや大変さを実感出来た事でしょう。

ジビエであったか・だんらん会
〈ふれあいセンター〉

暖かい晴天となった二月一〇日、四万十市西土佐江川崎の西土佐ふれあいホールで「ジビエであったか・だんらん会」が開催され、当センターも「アニマル木工教室」で参加しました。

この催しは、ニホンジカやイノシシなどの獣害被害が増加するなか、被害をを少しでも抑えることへの第一歩として、ジビエ（野生獣肉）料理について認知してもらおうと、NPO法人未来地域創造推進機構（FUCCO）が主催したものです。

会場には、「鹿マン（ネパールカレー風）」「シカ照り焼きピザ」等々、ジビエ料理を中心として一一店舗が出店。珍しさもあり、大部分のコーナーの料理は早々と売り切れていました。

また、ふるまわれた「シカ汁」も「意外と臭いがなくおいしい」と長蛇の列となり、沢山の来場者が舌鼓を打つ光景が見られました。

ホールの一画に設けた当センターの「アニマル木工教室」も順番待ちの親子連れなどであふれ、終日、大忙し。来場者の中には、森林教室で顔なじみとなった

愛媛県松野町の松野西小学校の児童をはじめ、「木の枝を使った木工が目的ではるばる大豊町から来た」という女性グループもいて、職員がこの日のためにと製作したシカの見本などとにらめっこしながら挑戦していました。

ケガをしないように気を配りながらのお手伝いに追われた職員は、昼食抜きの一日となりましたが、地域と一体となってのの取り組みは有意義なものとなりました。

なお、主催者によると来場者は五〇八人で、西土佐地域外が多く、約一〇％が県外からの来場者だったとのことです。

賑わう木工コーナー

公務員宿舎を津波避難ビルに

〈徳島森林管理署〉

四国沖の南海トラフ付近では、マグニチュード8クラスの巨大地震が周期的に発生することが知られており、これに伴う津波の襲来が危惧されているところです。徳島県の試算では、徳島市には五メートル以上の津波が押し寄せる恐れがあるとされていますが、これは管理署庁舎及び隣接する公務員宿舎の二階部分まで水没する深さになります。

当署が位置する徳島市川内町は平坦な田園地帯で、津波が襲来したときに避難する高台がなく、特に当署の周辺には高い建物もありません。津波の危険がある場合は、昨年開通した「阿波しらさぎ大橋」に避難することが想定されていますが、逃げ遅れた場合は、四階建ての公務員宿舎の三階以上に避難することが現実的です。

一方、徳島市では沿岸部を主体に、避難対象地区に建築されているビルを津波避難ビルに指定し、津波に備える取り組みを進めています。この徳島市の要請に応え、万が一の場合には地元の方々の避難にも資するよう、現在、公務員宿舎を避難ビルにするための工事を実施中です。

具体的には、四階の外廊下から屋上に登るための安全なタラップを取り付け、屋上には転落防止の手すり及び非常食等が備蓄できる建屋を新設することとしています。

現在、鉄骨工事がほぼ完了し、三月中旬には全ての工事が完成する予定ですが、完成後は徳島市と協定を結んだ上で、徳島市から正式に津波避難ビルに指定され、津波の危険がある場合は、当署の職員を含め約百名の周辺住民を受け入れることが可能となります。

平成二五年度からは国有林野事業は一般会計化され、より一層公益重視の業務運営を行うことが求められますが、当署では災害への備えについても国有林が有する施設等を活用し、地域のために貢献できればと考えています。

津波避難ビル化の工事中

クリーン作戦二題

〈香川森林管理事務所〉

高松市の庵治地区、屋島地区において、地域住民やボランティア等による大々的なクリーン作戦が行われました。

まずは、二月一七日に、庵治地区において、約一千人が参加し、「第一回むれ・あじ源平の里クリーン作戦」が行われました。

庵治地区では、美しい景観や源平合戦の古戦場である同地を不法投棄から守ろうと、住民有志等で作った実行委員会が初めてクリーン作戦を企画したもので、当所においても平谷国有林を抱えていることから参画しました。

当日は、天候にも恵まれ、空き缶をはじめ、テレビや冷蔵庫等の家電製品、古タイヤなど、約一一トンのごみを回収しました。

庵治地区・平谷国有林で回収したごみ

また、屋島地区では、三月三日に、約一千六百人が参加し、「第一二回屋島クリーン大作戦」が行われました。

屋島地区では、海岸線の県道沿いを中心に不法投棄が後を絶たないことから、毎年この時期にクリーン作戦を実施し、地域ぐるみで美化意識の高揚と不法投棄防止のPRに努めているものです。

当所では、屋島地区の県道及び市道の沿線の大部分が国有林（屋島国有林）であることから、毎年参加しています。当日は、茂みに捨てられたタイヤやテレビ、バッテリーなど約九トンのごみを回収しました。

高松市内の国有林における不法投棄については、地域の協力、高松市や警察と連携した撤去活動、摘発により、減少傾向にあるところです。

しかし、一部の心無い人達の悪質な不法投棄は後を絶たず、今後も、日常の巡視等とともに、地域や関係機関とも連携を図りながら、不法投棄の未然防止や清掃活動の保全管理に取り組んでいきます。

屋島クリーン大作戦での清掃活動の様子

「源平屋島の森」で鳥の巣箱掛け

〈香川森林管理事務所〉

二月二四日、屋島国有林の「源平屋島の森」において鳥の巣箱掛けが行われ、七六名が参加しました。

「源平屋島の森」では、毎年三回森林ボランティア作業として、下草刈り、つる切り等の作業を行ってきましたが、今回は、地域の要望も踏まえて、高松市立屋島東小学校の児童を主体に、PTA、地元自治会の協力を得て、巣箱掛けを行うこととしたものです。

巣箱掛けの開始前には、日本野鳥の会香川県支部事務局から小鳥についての説

明を受け、一二グループに分かれて作業を開始しました。

参加した児童や自治会の方々は、鳥の縄張りや巣箱を設置する高さを考えながらクヌギやサクラの幹に巣箱を掛けていました。中にはシュロ縄が枝に絡まり、巣箱がうまく掛けられず苦労している児童も見られましたが、自治会の方々のフォローにより、約四〇分で予定していた二四個すべての巣箱を掛け終えました。

鳥の巣箱掛けの様子

この箇所では、毎回下草刈り中心のボランティア作業を行っていますが、今回のように地域の要望等を踏まえて、実施内容に工夫をこらし、郷土の自然豊かな屋島をフィールドとした国有林のPRに努めていきたいと考えています。

北ノ川小学校 森林散策体験開催

〈四万十森林管理署〉

一月二九日、豊かな自然環境の中に住みながら、山へ行って遊ぶ機会がめったになく、地元の自然に触れさせてあげたいという先生の意向があり、高知県四万十町立北ノ川小学校一年～四年生二三名を対象に、四万十楽舎の「山の一日先生出前授業」の一環として、冬の雑木林を散策しながら、自然にふれあい、自然と共感できる糸口を見つけることを目的に初めて開催されました。

四万十楽舎より四万十森林管理署に講師派遣依頼があり、当署の森林ふれあい係長が講師として参加しました。

ツバキ、サザンカ、タラヨウの話

当日は、澄み切った空気の中、朝の冷え込みも厳しく、霜柱をさくさくと踏みながら森に入って行きました。雑木林の中、作業道やけもの道を歩きながら、山に登りました。「作業道は堅いけど、けもの道はふかふかの落ち葉が気持ちいいねえ」と、急傾斜の坂道も元気に登りました。

道中には、前日に降った雪が残っており、雪の上には動物の足跡がたくさん見られ、珍しいテンの足跡を見つけた時は、皆んな大喜びしていました。

また、イノシシの通った跡や、ウサギやシカのフンもあり、シカの角を拾って大喜びする場面もありました。

冬の森を散策

冬の森を歩きながら感受性の豊かな児童は、ヤブニッケイの葉っぱの臭いをかいだり、虫眼鏡で土やコケを観察したり、タラヨウの葉っぱに文字を書いたり、ヤブツバキの花の不思議など、色々なことに触れながら、ふるさとの自然の楽しさを体験しました。

限られた短い時間ではありましたが、けがもなく無事に下山することができました。

なお、今回参加してくれた児童が、少しでも森林や林業に関心を持ち、自然の大切さやすばらしさを感じてくれることを願います。

「羽根小学校森林教室」

〈安芸森林管理署〉

一月三一日、高知県室戸市立羽根小学校で小学五年生一四名を対象に森林教室を実施し、当署から講師として職員二名が参加しました。

はじめに、事前に提出してもらった森林についての質問に、答える形で森林教室を行いました。児童からは「なぜ日本の国土の三分の二が森林になったのか。」、「ヒノキはなぜくさらず、長生きするのか。」、「木が紙幣に使われるのはなぜか。」といった様々な視点からの質問が出され、頭を抱えながらの準備となりました。「ヒノキはなぜくさらず、長生きするのか。」という質問に、ヒノキには殺虫効果のある成分が含まれているからだと説明し、ヒノキで作られた世界最古の木造建築の法隆寺はなんと一三〇〇年も前に建てられたという話には、児童から驚きの声が上がりました。また、「木が紙幣に使われているのはなぜか。」という質問には、日本の紙幣はミツマタを原料とした和紙でできており、丈夫できめ細やかな特性のため精巧な印刷にも耐えることができ、偽造しにくい世界最高水準を誇っているという話をすると、児童は感心したようでした。

次に、校庭に移動し森林の水源涵養機能について模型を使った実験を行いました。まず、はげ山に水を撒き、はげ山は雨が降ると水が急に流れるため、土砂崩れや土石流が起きやすいことを説明しました。一方、森林は雨が直接地面に当たらず、根が土をしっかり固定するので災害を防ぎ、私達を守ってくれていることを話しました。水の浸透実験では、はげ山に比べ、森林の土壌は水を通しやすく水を貯める働きがあること、さらに森林の土壌を水が通る時に、汚れが浄化されきれいな水が飲めるようになることを説明しました。森林の土壌からきれいな水が流れてくる様子に、子供達は「うわ～きれいになっている。」と歓声を上げ、興味深そうに水が染み込む様子を観察していました。

はじめのうちは、おとなしかった児童も、最後は「この桜の木は葉がついていないが、枯れていないのか？」といった質問をしたり、「これから自然を大切にしようと思った。」といった感想を述べたりし、森林や自然に対して興味を持ち、森林の重要性を理解したようでした。

緑のダムの説明